

平成28年度 京都府予算編成に関する要望書



山田知事に要望書を手渡す 自由民主党京都府議会議員団代表

●日本経済は、輸出や生産面に新興国経済の減速の影響が見られるものの、緩やかな回復が続いていると見られているが、今後予想される南海トラフ巨大地震や毎年のように襲う異常現象ともいべき豪雨被害に対して十分な備えが必要であります。

●本府では、府政運営の指針である「明日の京都」に基づき、「だれもが幸せを実感できる希

望の京都」を目指し、積極的に取り組んでいるところがありますが、人口減少問題を中心とした地域創生への様々な対応など、府民生活を守るためにはなお一層の取組が求められます。

●そのためには、生活を支える仕組みづくり、社会を支える仕組みづくり、日本をリードする強みを強化する施策に重点的に取り組むことが必要であります。

●平成28年度予算編成と今後の施策展開に際しては、昨今の社会・経済情勢を踏まえ、特に緊急の対応が必要なものについては緊急重点対策とし、その他府政重点項目、各部署への要望として196項目にわたる要望書を提出したところであり、府政重点20項目は次のとおりです。

第1 緊急重点対策

- ①集中豪雨対策の推進
- ②複合・広域災害に対応した防災対策の推進
- ③原子力防災対策の推進
- ④地方創生の推進
- ⑤抜本的かつ総合的な少子化対策の推進
- ⑥次代に対応できる教育の充実
- ⑦医師等医療従事者確保対策の推進
- ⑧中小企業支援の推進
- ⑨女性の活躍促進
- ⑩森林資源の循環利用の促進と林業経営安定化の推進
- ⑪北陸新幹線敦賀以西の延伸については、小浜ルートを進捗しつつ、府域の均衡ある発展に資するルート選定を国に強く求めること
- ⑫入札制度の改善及び地域の安心・安全を支える建設業の育成

第2 府政重点項目

- 1 生活を支える仕組みづくり
 - ①京都市地域包括ケアの推進、高齢化社会における介護支援の充実
 - ②不安なく子育てできる環境の充実
 - ③経済的に困難な状況にある子どもへの就学支援
 - ④生活困窮者等の自立促進
 - ⑤保健・医療対策の推進
 - ⑥戦略的地域づくりを進めるための社会基盤整備の促進
- 2 社会を支える仕組みづくり
 - ①中小企業・小規模企業等対策の推進
 - ②活力と魅力ある農林水産業の振興
 - ③持続可能な農山漁村づくりの推進
 - ④有害鳥獣被害への対策
 - ⑤安心・安全な地域社会の実現と危機管理体制の整備
 - ⑥食の安心・安全の確保と地産地消・食育の推進
 - ⑦分権型社会の構築
 - ⑧エネルギー対策の推進
- 3 日本をリードする強みづくり
 - ①地球温暖化対策の推進
 - ②京都産業の高度化・活性化、新しい産業拠点の創成
 - ③文化・芸術の推進
 - ④北山文化環境ゾーンの整備及び多世代間交流の推進
 - ⑤関西文化学術研究都市の新たな発展
 - ⑥人口減少社会における地域創生の推進



平成27年9月 定例議会において 村田まさはる議員が 一般質問を行いました。

① 新宇治淀線について

近鉄大久保駅やJR新田駅を中心とする大久保地区につきましては、駅周辺の交通集中やJR奈良線の踏切による慢性的な渋滞が発生しているところですが、現在の整備事業の進捗状況と開通時期の目途について、更に今回の整備事業が完了した後、残る府道宇治淀線までの延伸区間の事業化が必要と考えますが、その見通しはどのようにでしょうか。

答弁

新宇治淀線については、宇治市とも十分に協力しながら、今年度中の併用を目指して、用地確保、工事に鋭意努めていきたい。また現宇治淀線までの残された延伸区間200mの事業化については、都市計画決定がされているルートがありますが、宇治市からは現在の市道を活用したルートでの都市計画変更と整備促進の要望を京都府が受けているところ、事業化に向けてはそのルート検討が喫緊の課題と考えています。引き続き宇治市と十分連携しながら検討を進めてまいります。

② 第40回全国育樹祭について

宇治市の府立山城総合運動公園「ふれあいの森」にお手植えをされた「北山杉」と「しだれ桜」に皇族殿下がお手入れされる事となり地域の活性化につながる行事として大いに期待するところですが、開催に向け、府民交流や森の文化の発信をどのように進められるのか、その取り組みについてお伺いします。

答弁

来年の全国育樹祭におきまして全国の緑の少年団へ贈呈します苗木の育成を府内の緑の少年団に行っていたり、育樹祭の開催を契機として次世代に森の大切さをつないで行く取組を進めています。こうした取組を通じて全国育樹祭が森を守り育てる府民交流と森の文化の継承に繋がるよう進めてまいります。

③ 茶業研究所の機能強化について

宇治茶と宇治茶文化の世界への発信に向けて、茶業研究所における研究開発と人材育成の機能強化が望まれる中、本年度当初予算で「茶業研究所機能強化整備事業費」が計上され、大きな期待を寄せている茶業研究所建

答弁

替えの今後のスケジュールと具体的にどのような機能強化を進められようとしているのかお伺いします。

本年度中に実施設計を完了し、平成28年度から建設工事に着手し、お茶の京都ターゲットイヤーとなる平成29年の秋には竣工予定とし、伝統あるお茶と木の文化が感じられるよう府内産木材を利用し最新の木質材料も一部採り入れた木造建築とすることで、地域の木材利用の増加による木材産業の成長産業化にも繋げていきたい。

機能強化としては、交流機能を最大限発揮できるように本館を平屋建てのワンフロアとし、企業・大学などと食品素材の開発や成分研究ができるオープンラボや交流空間を確保する他、製茶棟については、伝統の手揉みから茶業研究所が全国に先駆けて技術開発を進める新てん茶乾燥機などを整備し、茶業界の担い手育成にも貢献していきたいと思っております。

④ 北陸新幹線について

北陸新幹線の敦賀以西のルート問題ですが、私案としては府中北部地域の発展を考えると、小浜から舞鶴を経て、京都に至るルートが最適だと思っておりますが、国のルート検討が今後本格化していく中、京都府域の地域振興という視点に立った意見を京都府としても主張していく必要があると考えますが知事のご所見をお伺いします。

答弁

まさに次の課題とされたという点では、関西広域連合の中で否定されたルートではないと考えていますが、コスト問題や在来線との問題、様々な問題もあり、今後、広域連合の中でもこうした意見を踏まえながら、対応のあり方について考えていかなければならないと思っております。